



北見ロータリークラブ週報

●創立/1937年9月30日 ●事務所/ナシオビル ☎25-2824 ●例会日/毎週水曜日 ●例会場所/ホテル黒部

HPアドレス <http://www.kitamirc.jp>

第3233回例会・2019年2月20日

本日のプログラム

「ロータリー創立記念夜間例会」

第3232回例会（2月13日）の記録

- 司会** 横地親睦活動委員
- ロータリーソング** 我等の生業
- ビジター** 北見東RC 菅原 吉隆 様
- 会長挨拶** 坂井会長

私の今年度の重点目標の4番目に「例会・各種会合への積極的な参加」とさせて頂きました。ロータリーは親睦と奉仕と言われますが、この中の「親睦」というのが私はロータリーの方針に繋がると思っています。そのような中では、会員相互であったり、来訪者の方であったり、他クラブとの交流であったり、家族との交流であったりという事だと思えます。先だって私は、皆さんが輝いているなどという事を今迄になく感じた事がございました。先週ですが、森本会員の方からゴルフのスタートの会をするという事を聞いておりました。その時、途中で顔を出させて頂いて、戸を開けたら、皆さん笑顔で素晴らしく輝いていて、親睦の良さを感じた次第でございます。このような交流等で親睦が養われ、奉仕に繋がるといように思っています。そんな事を通じて、皆さんが輝いて頂けると痛感した次第でございます。今後は情報集会も行われますし、そのような会に積極的に出て頂く事によってロータリーとしての理念も達成されるのかなと思っておりますので、今後とも色々な事に積極的に参加し、楽しんで頂いて、奉仕に繋げて頂ければという事をお願いしたいと思います。

委員会報告

岡村会員

情報集会の第5班の報告をさせていただきます。3月1日(金)18時30分より瀋陽飯店で行いますので、宜しくお願い致します。



プログラム 新入会員卓話 「冠婚葬祭の歴史」

(株)ベルコ北見支社 支社長 高橋 昭広 会員

明治以降、社会の変化とともに冠婚葬祭の分野でも次第に変貌を遂げてきているという部分では、今現在もかなり多様化したやり方というのがあります。始まりは共同体という事で儀式を司ってきました。明治初期、東京等の都市部でも町内を中心に共同体で儀式を行っていたようです。葬儀は自宅から葬儀場へ向う「葬列」という儀式のやり方でした。結婚式については、地域や経済の状況で異なるものの、家と親類との共同体の証人によって成立するといった考え方が時代背景の中にもありました。今もこの考え方は変わっていませんが、最近では町内会等が中心になりまして、儀式事のお手伝いをされる等、冠婚葬祭の儀式事というのは地域住民を中心にお互い協力し合うという考え方になられているようです。

時代背景としましては、今風の神前結婚式というのはいつ位から行われてきたかという事ですが、大正天皇の時代に九条家の節子さんがご成婚という時代背景があります。神前結婚式の歴史は、1900年(明治33年)に皇太子の嘉仁殿下のご婚儀が初めて宮中の賢所大前で行われた事に遡ります。また、馬車でのパレードや新婚旅行に出かけた最初のロイヤルパルクでもあり、その翌年には日比谷大神宮(現東京大神宮)で模

擬神前結婚式というのが開かれ、更にその翌年には民間初の神前結婚式が行われました。この結婚式のやり方が一般にも普及し始めてきた時代背景というのは、この大正天皇の時代の中から生まれてきたという事でございます。地域によって伝統風俗が異なる為、婚礼のやり方等についても混乱が生じる事も珍しくはなかったという事でした。

葬儀の部分では、最初の葬儀社の誕生というのは、明治時代に台頭した富裕層を中心に、従来は夜に人の目を忍び行われていた儀式が、昼夜に大規模に行われるようになり、葬列の担ぎ手の手廃業や葬具のレンタル業等が発生し、最初の葬儀社というのが誕生しました。当時は土葬の時代で、奥に寝かせて日雇いの労働者に担がせていたようです。この奥というのが今風の祭壇の彫刻のモデルになっています。明治30年代、都市化が進んで、人口が増えるとともに土葬場所の確保が問題となり、近代的な火葬炉が登場し、1897年(明治30年)に伝染病予防法が制定され、火葬が一般的になり、今現在もその流れが引き継がれています。告別式の始まりという部分では、思想家の中江兆民が死去した際、宗教的儀式を廃し、友人の板垣退助らが哀悼の意を述べるという告別式を行った事を各紙が報じた影響で、以後大正にかけて知識人を中心に告別式が浸透していきました。最終的にはお別れをしていく中で故人の生前の功績を称えるスタイルに変化してきた時代の始まりでもありました。また、女性の自立、結婚観の変化等、都市に住む中産階級が増え、男女平等や個人の自由等近代的な思想が発達したこの時代、女性の自立を求める運気が高まり、結婚や家族のあり方に対する人々の意識にも変化が生じ、冠婚葬祭に関わる各マニュアル本等が多数発行されたのもこの大正時代に入ってからのものであります。大規模霊園と葬祭施設の普及という事で、1923年(大正12年)に多摩墓地がオープンします。人口増加で墓地スペースが無くなった為作られた日本初の公園型霊園というのが出来たのですが、出始めの頃はあまり人気がありませんでした。しかし、関東大震災で下町の寺院墓地が倒壊し、区画整理事業で郊外に移転を余儀なくされた事で認知されはじめ、土地の有効利用の観点から火葬場や斎場等、関連の施設が登場してきた時代でもありました。葬儀は祭壇中心の時代へ移って参りまして、葬列が変わって告別式が喪に服する社会的な位置づけとなったこの時代、都市部では自宅での告別式が広まった事に伴い、祭壇が葬儀の中心に変わっていきました。当初は白い布を掛けた祭壇を使用されていましたが、次第に祭壇の数や道具の種類が増え、ランクが誕生し、霊柩車が普及し始めたのもこの時代背景でした。昭和23年、都民葬がスタートし、自治体で冠婚葬祭のやり取りに参入されてきました。

冠婚葬祭事業の中で、互助会という言葉が生まれてきました。昭和23年に積み立ての歴史の始まりがあり、神奈川県横須賀市で「横須賀冠婚葬祭互助会」という会社で、日本初のお客様同士でお金を出し合って冠婚葬祭の儀式に備える積み立てを始めました。今も町内会費等をやり取りされておられるかと思いますが、これが原点にあり、冠婚葬祭事業用にお金の積み立てをしまして、最終的に会社を設立した中でやり取りを行っていったこの時代が始まりであったという流れです。しかし、任意でお金を集められていた中で法規制がありませんでした。そうすると色々なトラブル事が起きまして、昭和47年に割賦販売法という法制に組み入れられ、そこから色々な制度が普及していき、飛躍的に安全なやり取りが進んでいきました。

結婚観も変化していき、女性の高学歴化と社会進出が進んだこの時期、出産後も働き続ける女性が1970年以降頂点に達し、共稼ぎ時代に入っていました。派手婚ブームや地味婚ブームがあったり、ウェディングケーキ入刀やキャンドルサービス等が演出の中に入ってきたり、映像を駆使する等の時代背景があり、最近では3Dの映像を流したり等もあります。また、今は神前結婚式からチャペルウェディング形式が人気となり、現在の主流となっております。葬儀に関しましては、高齢者の核家族化や高度医療の進展により、最期を迎える場所が自宅から病院へと変わっていきました。更には、昭和50年代に入りまして、北九州で専用の葬儀場が出来、最終的にはその施設の中で葬儀が出来て、お食事をする場所があり、お風呂が完備される等の設備が充実して普及が始まりました。



出席報告 潮田出席委員長

出席報告	例会日	会員総数	出席免除	総出席計算数	例会出席免除者	事前メイクアップ	事後メイクアップ	確定計算出席数	出席率
計算式		A	B	C	D	E	F	C+E+F	$\frac{C+E+F}{A-B+D} \times 100$
本日	2/13	62	7	38	4	1	-	39	66.102%

【次回2月27日】 新入会員卓話 「37年ぶりの北見勤務 ～梅津公弘のエピソード～」
(一財)北海道電気保安協会北見支部 支部長 梅津 公弘 会員

編集後記 寒くても、動いて歩いて、春の訪れを待っています！ (T.K)

2018～2019年度 北見R.C.活動方針

ロータリーの輝きを人へ未来へ

2018～2019年度 北見RC ●会長/坂井 浩 ●幹事/高野 英明 ●週報編集/小山 孝之

ホスト・クラブとは
複数のRCが集まって例会や合同の会合を開催する場合、計画から実施まで責任をもって世話役となってまとめていくクラブのことです。